



成長可能性に関する説明資料

2020年3月

株式会社NexTone

証券コード 7094

I

会社概要

II

特徴・強み

III

中期展望

APPENDIX

会社概要

社名	株式会社NexTone [英語名：NexTone Inc.]		
代表者	代表取締役CEO 阿南 雅浩		
設立年月	2000年9月		
本社所在地	東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー20F		
資本金	819,762,000円 (2019年9月末)		
株主構成	エイベックス・ミュージック・パブリッシング(株) 790,400株 (29.2%) (株)フェイス 300,000株 (11.1%) (株)アミューズ 300,000株 (11.1%)	(株)JRCホールディングス 三野 明洋 他	257,600株 (9.5%) 246,200株 (9.1%)
役員構成	代表取締役CEO 阿南 雅浩 代表取締役COO 荒川 祐二 常務取締役 名越 禎二 常務取締役 松村 晶司	社外取締役 高橋 信彦 社外取締役 升本 喜郎 常勤監査役 佐藤 俊樹 社外監査役 小林 伸之 社外監査役 大嶋 敏史	
事業内容	著作権等管理事業/キャスティング事業/その他事業		
売上規模	3,239,801千円 (2019年3月期)		
従業員数	62名 (2019年3月末)		
総資産	3,450,550千円 (2019年9月末)		
主な取引先	エイベックス・グループ、(株)アミューズ、(株)ドワンゴ、(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント、(株)ワーナーミュージック・ジャパン、iTunes(株)、(株)レーベルゲート、(株)SDR、(株)レコチョク、他		

経営理念 権利者に選ばれ、
利用者から支持される
著作権管理事業者となる。



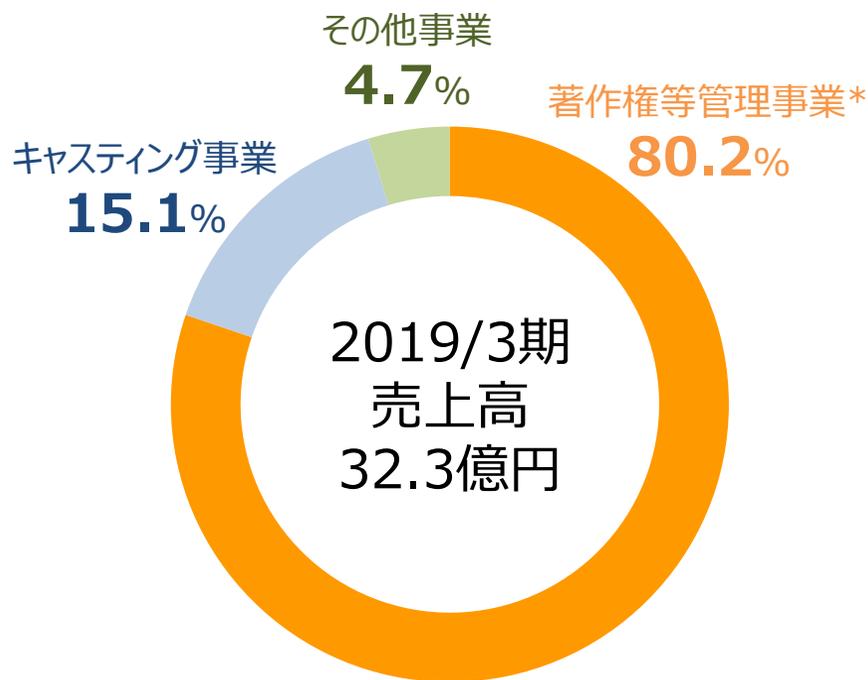
for the future of

MUSIC

楽曲著作権者と利用者との間に立ち、
著作権の管理と利用促進を推進する
著作権エージェント

- ✓ 「著作権等管理事業」、「キャスティング事業」及び「その他事業」の3事業セグメントで構成
- ✓ 全社売上の80%を占める「著作権等管理事業」は管理業務と配信プラットフォーム向けコンテンツ供給が主体
- ✓ 「キャスティング事業」「その他事業」でも音楽出版社、アーティスト等、音楽産業に携わる皆さまを幅広くサポート

売上構成



*DD：売上高＝取扱高

■ 著作権等管理事業

- 著作権管理
 - ・ 著作権者から委託を受けた音楽著作物の利用許諾
 - ・ 著作物使用料の徴収・分配業務など
- デジタルコンテンツディストリビューション(DD)
 - ・ 国内外の音楽配信プラットフォームに向けた音楽・映像コンテンツの供給

■ キャスティング事業

- キャスティング・コンサルティング
 - ・ アーティスト稼働やライブへのユーザー招待、楽曲タイアップに関わる音楽コンテンツの権利処理等を通じたコンテンツ利用促進コーディネート
- ODSサポート ※
 - ・ ライブビューイング／映画配給・宣伝
 - ・ 映画館を利用したイベントコーディネート等

■ その他事業

- 著作権・原盤権等の権利処理システムの開発・提供、コンテンツ配信関連のシステム開発・提供、及び、各種社内システムの開発・運用など

※ ODS Other Digital Stuff (非映画デジタルコンテンツ)
映画館で上映される映画以外(音楽コンサート、スポーツ、演劇、その他ステージイベント等)のデジタル映像作品

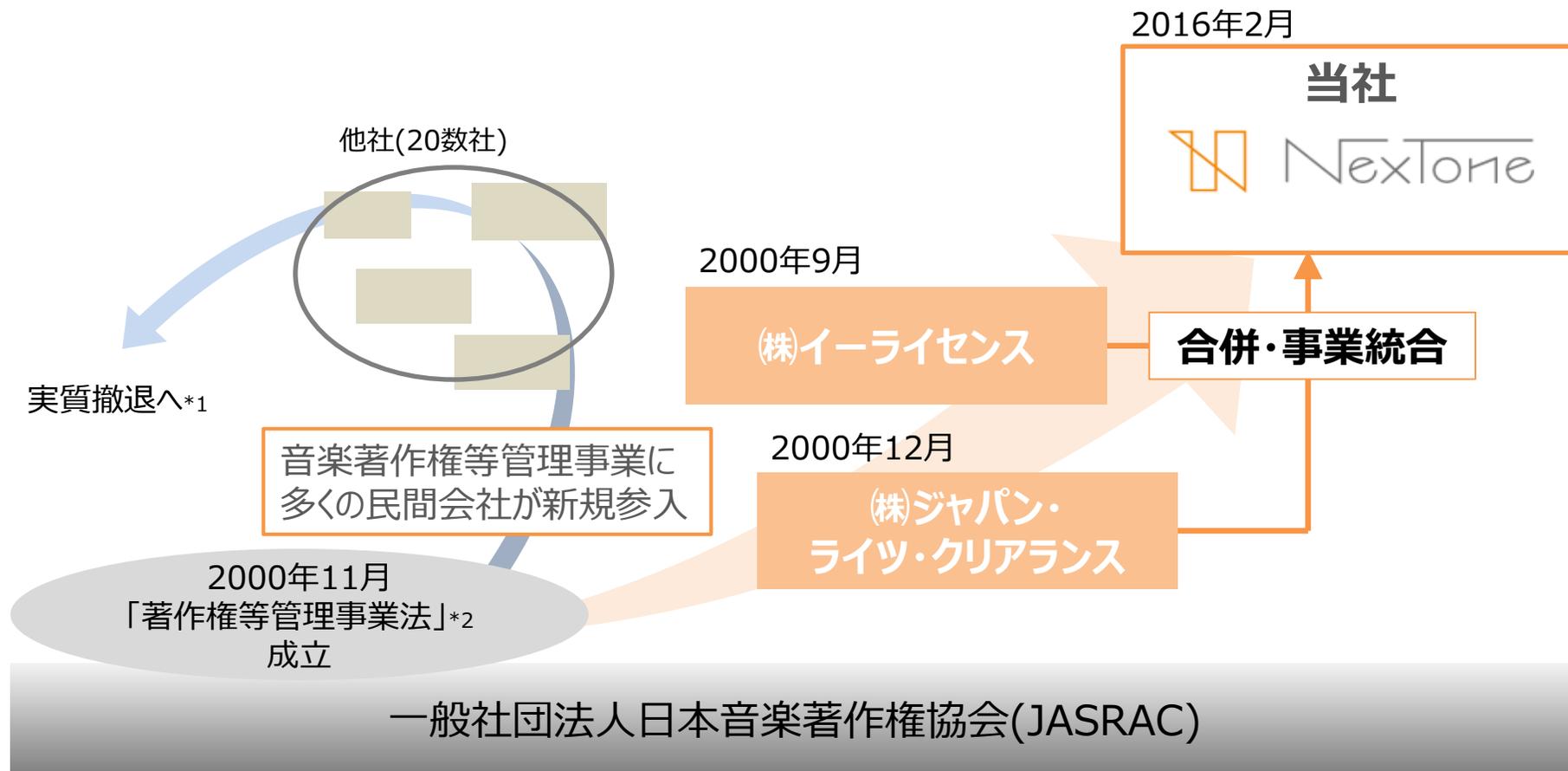
音楽著作権について

- ✓ 音楽著作権は、4つの支分権（①～④）と7つの利用形態（⑤～⑪）により形成
- ✓ 当社は現状、演奏権等（①）を除くすべての領域（②～⑪）を管理

①演奏権等	②録音権等	③出版権等	④貸与権
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンサートでの演奏 ・ カラオケ歌唱 ・ 店舗内BGM ・ 映画館での上映、等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CDの複製、等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞集の印刷 ・ 楽譜の印刷、等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ CDレンタル
	⑤映画への録音		
	⑥ビデオグラム等への録音		
	⑦ゲームへの録音		
	⑧広告目的で行う複製 <ul style="list-style-type: none"> ・ テレビ/ラジオCMへの複製 ・ インターネットCMへの複製 ・ 広告印刷物への歌詞の複製、等 		
	⑨放送・有線放送 テレビ/ラジオでの放送、等		
	⑩インタラクティブ配信 スマートフォン/パソコンへの配信、等		
	⑪業務用通信カラオケ カラオケ施設での歌唱のための複製、公衆送信、等		

創業の経緯（沿革）

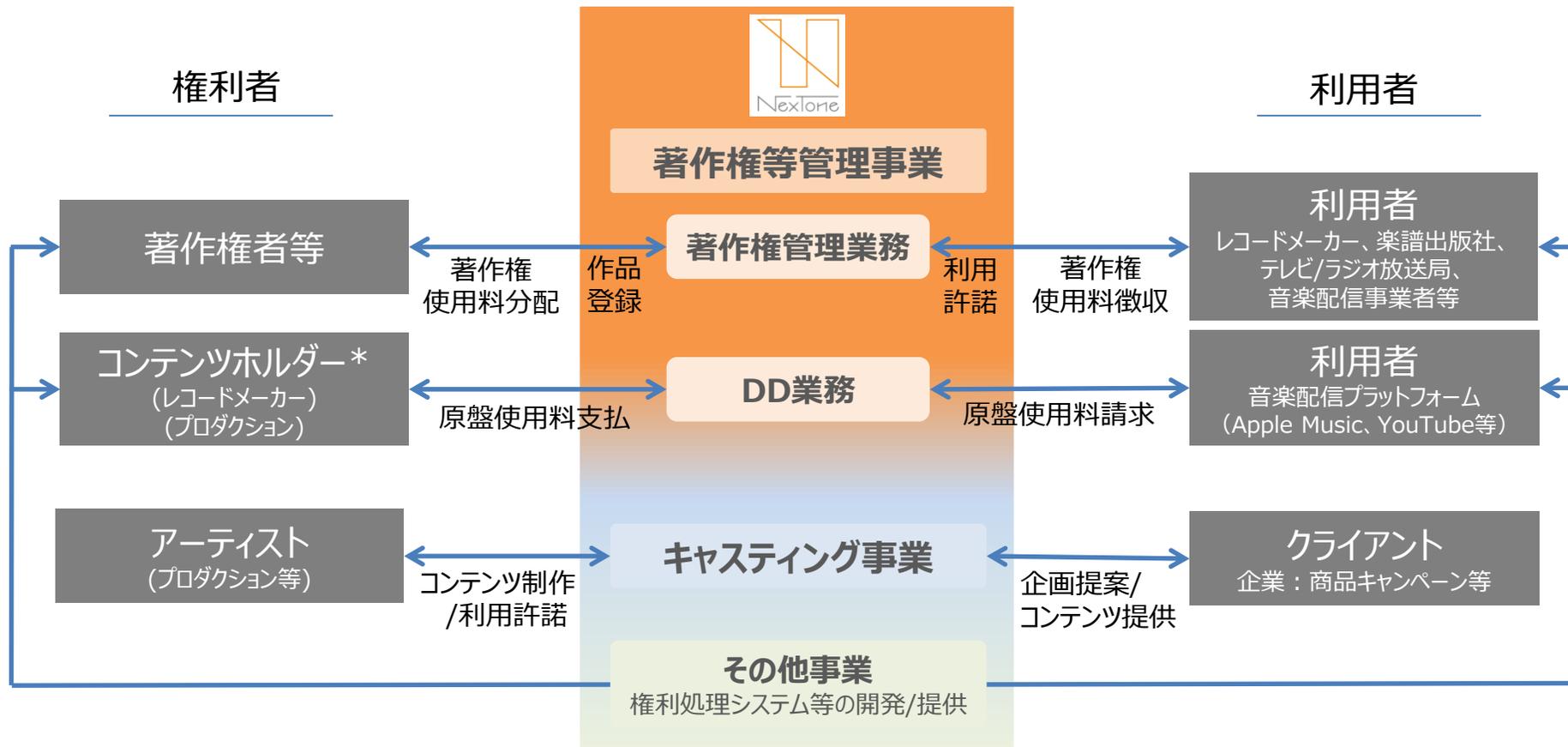
- ✓ 「著作権等管理事業法」施行により、デジタル化の進展を想定した多数の民間企業が当事業に参入
- ✓ 当社はその中の2社「(株)イーライセンス」・「(株)ジャパン・ライツ・クリアランス」が合併統合し発足
- ✓ しかし、デジタル化ピッチは加速せず、各社実質撤退



*1：企業登録は残っているものの、楽曲管理はJASRACに既に移管している状態

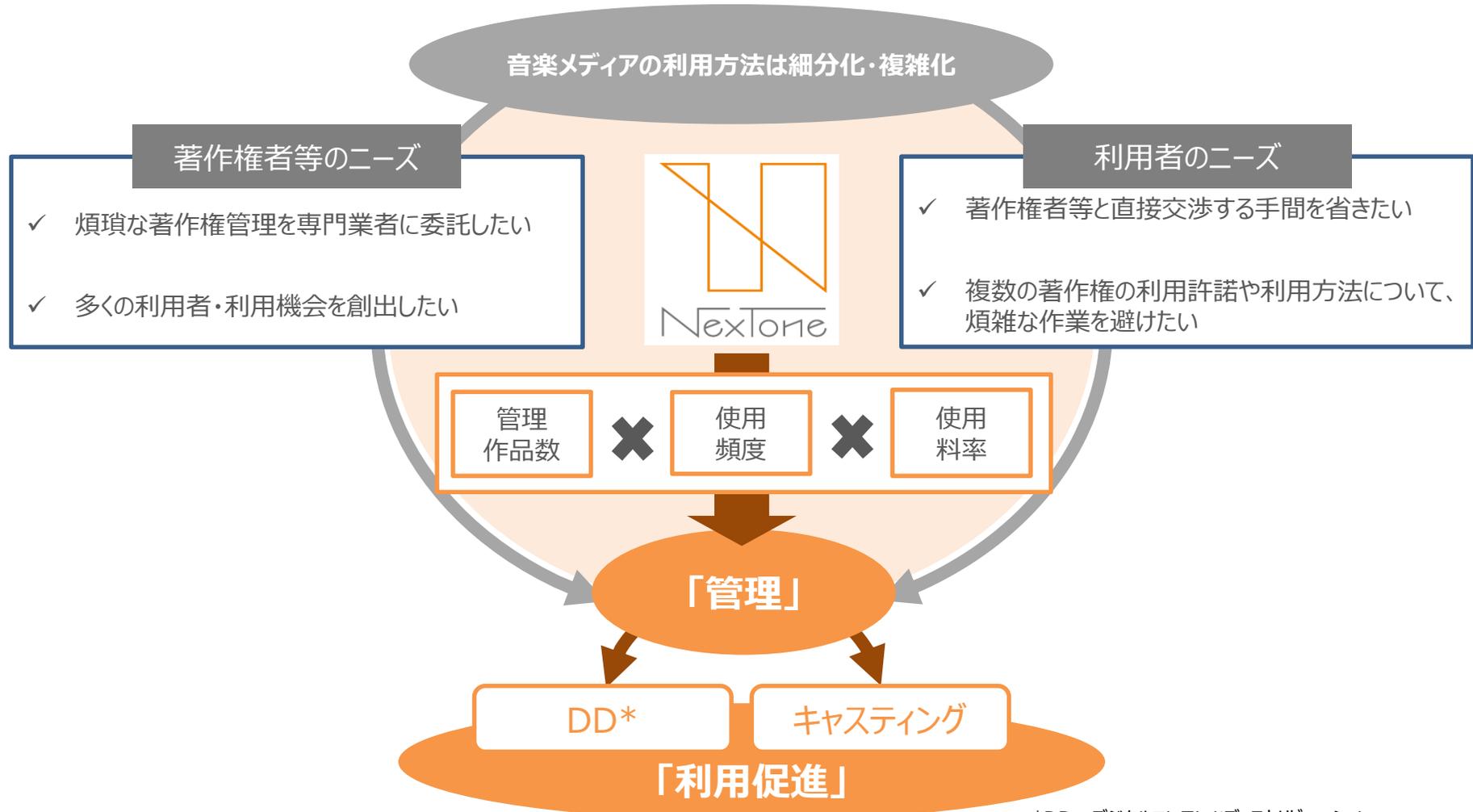
*2：「著作権等管理事業法」成立前は、一般社団法人日本音楽著作権協会(JASRAC)が法律「著作権二関スル仲介業務二関スル法律」で唯一認可された管理事業者

- ✓ 当社は著作権管理、配信音源供給、キャスティングに専念し、ユーザーと権利保有者との仲介エージェントとして機能
- ✓ 基本的に利用者より使用料を徴収し、コンテンツホルダー他に分配



*2019年3月現在で600社以上

- ✓ 音楽作品の管理・利用に関するルールや使用料を定め、その利用許諾と使用料の徴収・分配等のサービスを提供
- ✓ 楽曲の「利用促進」に向けて様々なサポートサービスを実施し、著作権者の受益機会拡大を追求



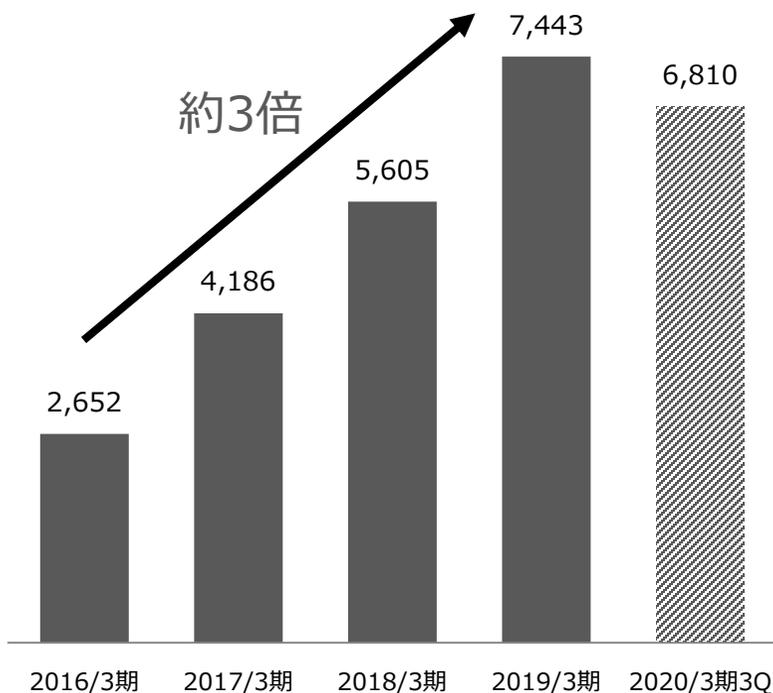
*DD：デジタルコンテンツディストリビューション
国内外の音楽配信プラットフォームに向けた音楽・映像原盤の供給

事業規模の推移

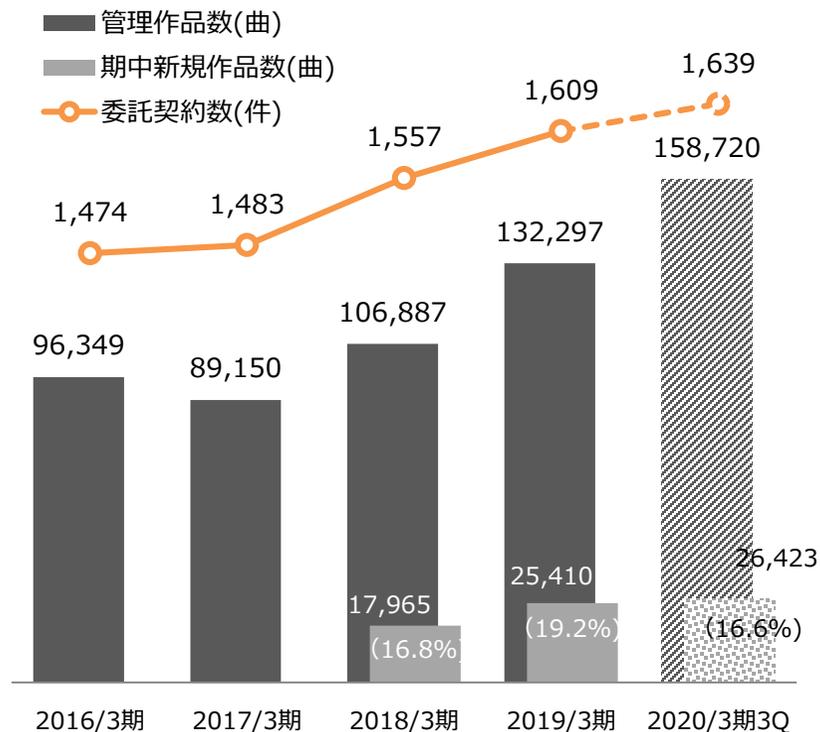
- ✓ 取扱高（総入金額）は直近3年で約3倍に拡大。2020/3期3Q現在の前期比進捗率は91.5%
- ✓ 取扱高の基礎となる管理作品(コンテンツ)数も、不稼働コンテンツを管理終了した2017/3期を除き、順調に拡大
- ✓ 既存作品の管理獲得に加え、新規作品の取込みも進展（全管理曲数の2割弱）

取扱高

(百万円)



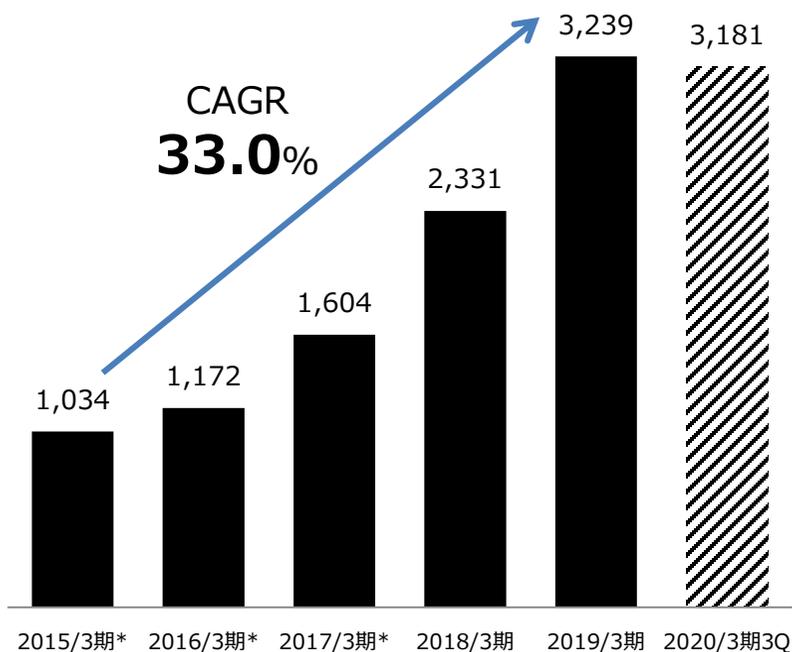
管理作品数、委託契約数



- ✓ 2015/3期以降、売上高は年率33.0%で成長。特に直近3期は年率42%成長と、ピッチはさらに加速
- ✓ 経営統合及びオフィス移転によるコスト増加一巡により、経常利益は2017/3期を底に拡大基調で推移
- ✓ インタラクティブ配信の伸長などで2018/3期以降、過去最高益を連続更新中

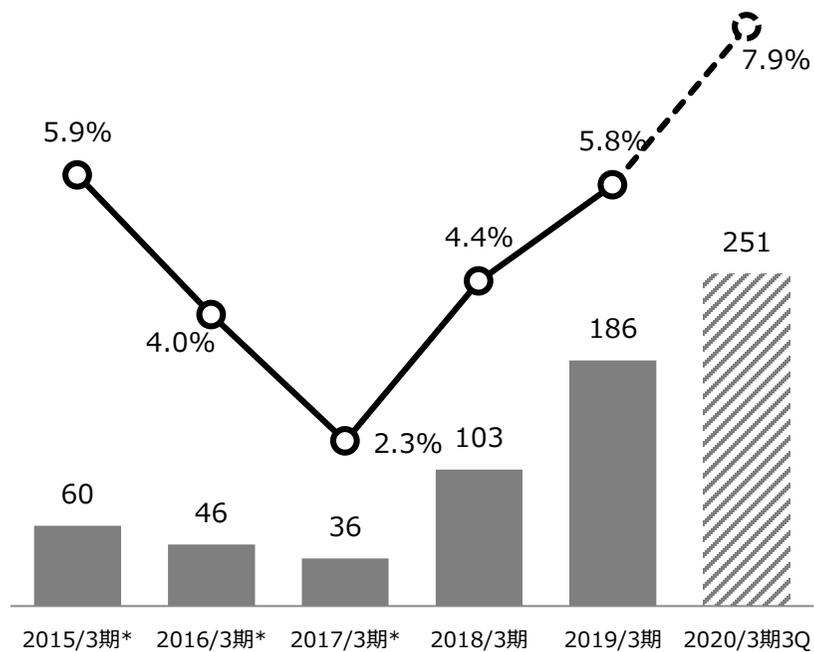
売上高

(百万円)



経常利益、同利益率

■ 経常利益 ○ 経常利益率
(百万円)

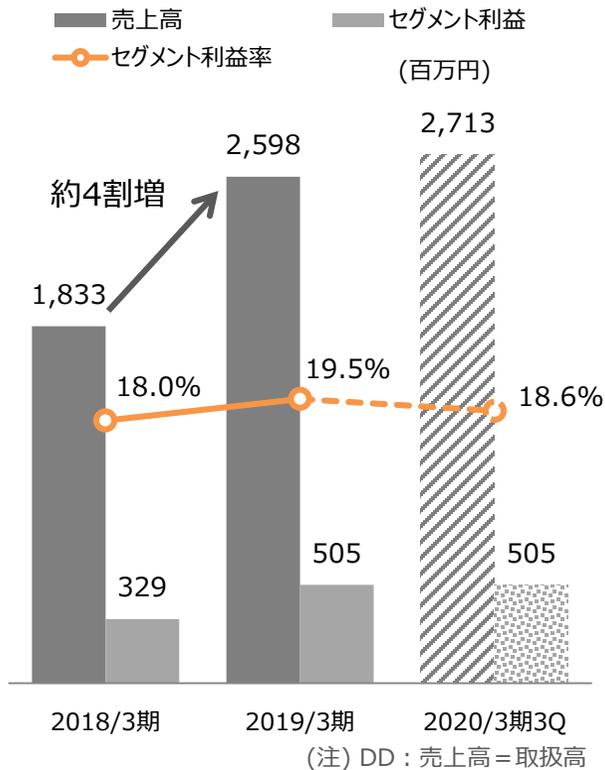


(注) DD : 売上高 = 取扱高

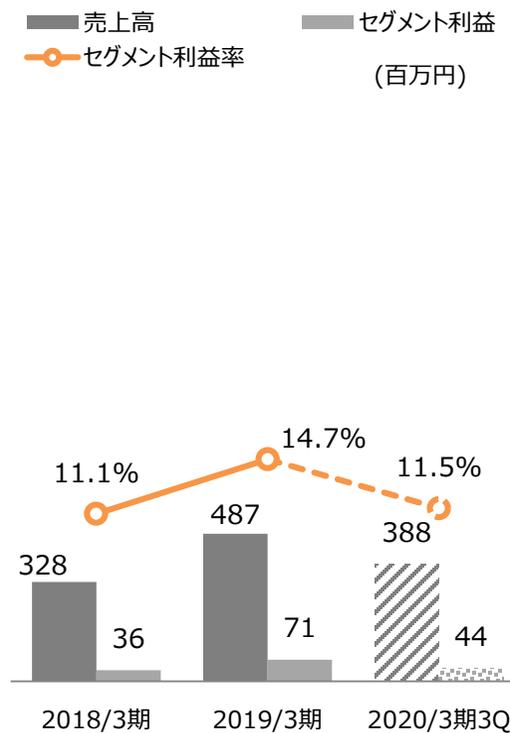
*単体決算

- ✓ 主力の著作権等管理事業の売上高は順調に拡大(2019/3期は4割増)、営業利益率は20%程度で推移
- ✓ 2012年参入のキャストイング事業は発展途上。その他事業ではシステム開発コストが増加

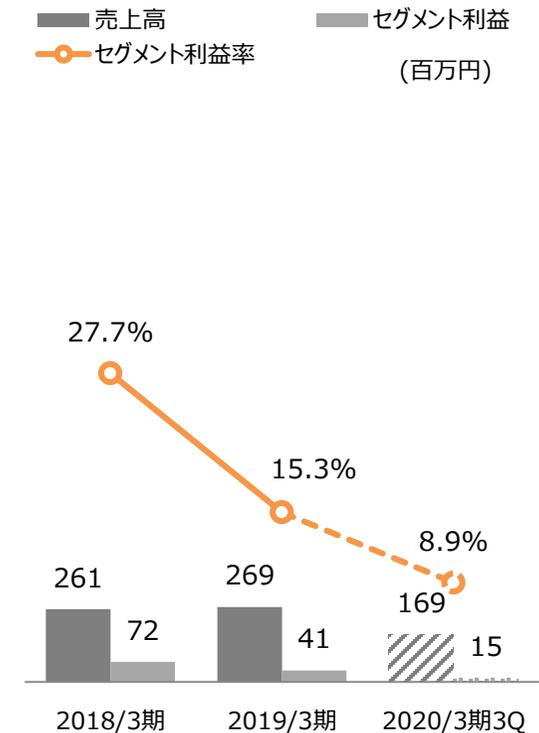
著作権等管理事業



キャストイング事業



その他事業



強み・特徴

	当社
著作権使用料徴収額 (2018年度実績)	44億円
管理手法	主にデジタル管理
徴収形態	使用実績に応じて徴収
著作権等の管理範囲	「演奏権」以外
委託者（著作権者） との契約形態	委託契約 (委任/取次)
権利者の意思反映	権利者裁量により 柔軟に料率変更が可能

強み・特徴

I

オンリー・ワンの挑戦者

II

分配金管理システムの高い透明性

III

利用促進のプロモーター

➤ DD業務、キャストینگ事業で利用促進

- ✓ 2000年の法改正により、30社程度が新規参入を表明
- ✓ しかし、当社以外の新規参入社は全て実質事業を縮小
- ✓ 日々の膨大な著作権利用に係るデータや情報のシステム管理と具体的料金徴収及び分配金支払業務はかなりの負担。新規参入障壁は高い

著作権管理事業への参入障壁

① 著作権管理は手数料5.0～9.8%の低収益事業

② 日々の膨大かつ複雑な著作権利用に係るデータや情報のシステム管理能力が必要

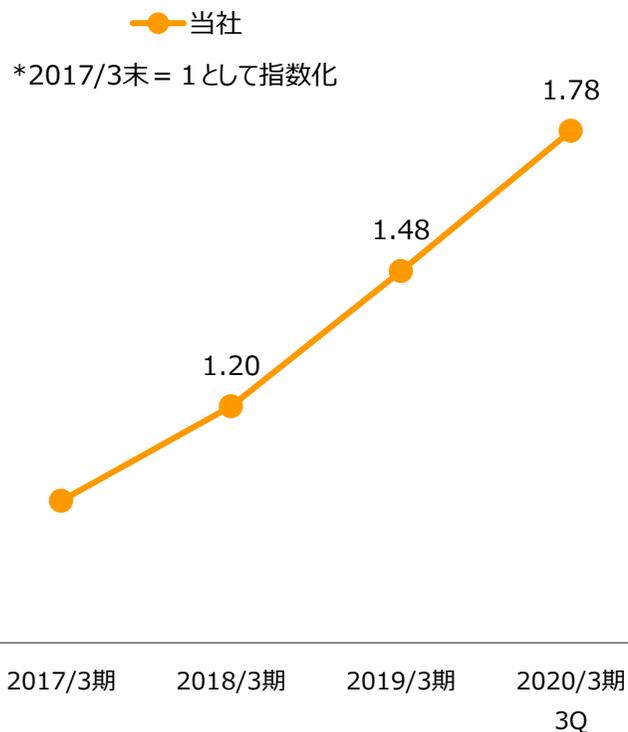
③ 手数料徴収及び権利者への分配金支払の膨大な実務能力が必要

2000年の法改正で
28業者が登録するも、
現在は
実質上の撤退状態

当社は数少ない「生き残り」の民間企業

- ✓ 健全な新規参入業者に対し、著作権者は管理の移管、新規管理の委託などで反応
- ✓ JASRACからの移管変更曲数は過去2年で1万曲超。一方、当社からの流出曲数はわずか
- ✓ 新規管理作品も順調に蓄積。管理作品数の拡大ペースは3年弱で1.8倍に

管理作品数の推移



JASRACからの移管曲数*1など

	2018/3期	割合	2019/3期	割合
期中新規管理作品数*2	17,965	16.8%	25,410	19.2%
JASRACよりの全面移管作品数	2,291	2.1%	405	0.3%
JASRAC管理範囲の一部移管作品数	5,808	5.4%	1,708	1.3%
当社作品減少数*3	1,041	—	205	—

*1：実際のJASRACからの管理移管スタートは翌期初から（4/1～）

*2：2020/3期の期中新規管理作品数は12月末現在で**26,423**件
同時点の管理作品数は**158,720**件

*3：受託契約の終了、JASRACへの移管が混在

分配金管理システムの高い透明性

- ✓ 作品名、利用者、使用数等の「分配明細」を定期的に権利者に開示するデジタル管理システムを構築
- ✓ 利用状況が明確となるため、著作権使用料の確認だけでなく、マーケティングデータとしても活用可能

デジタル管理 ('分配明細'例)

<インタラクティブ配信>

作品コード	作品名	利用者	サービス名	種別	TV	使用数	単価	使用料(税別)	消費税率	備考
作品合計										
						48		12	0%	
						24		3	0%	
						3	7.80	22	0%	
						2	7.95	14	0%	
						71		9	0%	
						12		2	0%	
						1	8.13	8	0%	
						1	8.00	8	0%	
作品合計										
						195		9	0%	
						818		132	0%	
						479		1	0%	可換
						1,156		217	0%	

作品名、利用者、サービス名、使用数、使用料等

<YouTube配信>

NexTone作品コード	作品名	動画ID	動画タイトル	動画の期間内再生数	サービス情報	国コード
N0000****	*****	*****	*****	*****	2 YouTube Music	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	1 YouTube Music	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	500 YouTube	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	92 YouTube	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	2 YouTube Premium	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	4 YouTube Music	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	2 YouTube Music	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	5 YouTube Premium	JP
N0000****	*****	*****	*****	*****	1 YouTube Music	JP

作品名、動画タイトル、再生数等

<放送>

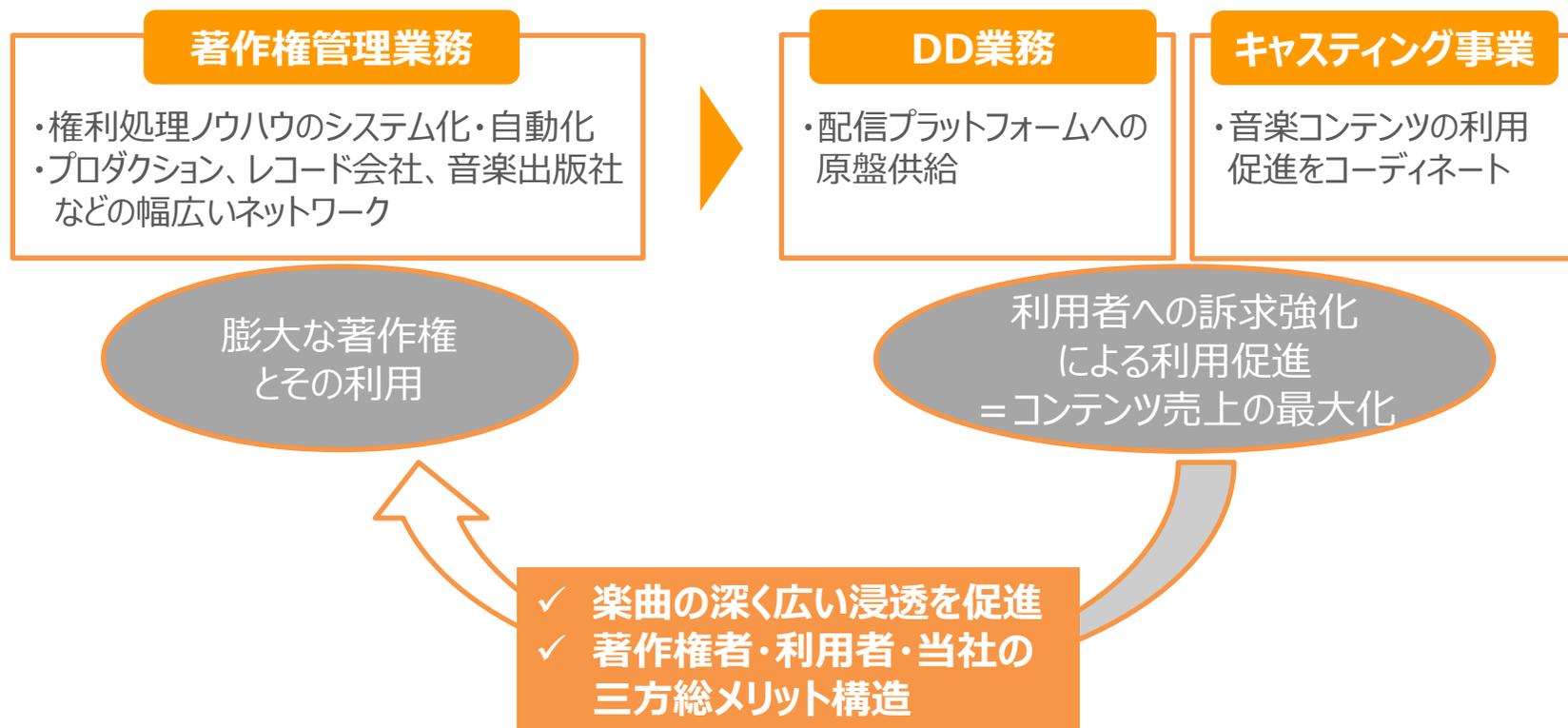
作品コード	作品名	種目	利用者	番組名	利用秒数	利用回数	放送年月日
N0000****	AAAAA	TT	長野朝日放送株式会社	*****	43	1	2019/2/20
N0000****	AAAAA	TT	株式会社静岡朝日テレビ	*****	43	1	2019/2/7
N0000****	AAAAA	TT	九州朝日放送株式会社	*****	43	1	2019/2/28
N0000****	BBBBB	TR	株式会社エフエム青森	*****	25	1	2019/3/3
N0000****	BBBBB	TR	株式会社エフエム仙台	*****	67	1	2019/3/2
N0000****	BBBBB	TR	株式会社エフエム山形	*****	131	1	2019/3/3
N0000****	CCCCC	TR	株式会社エフエム栃木	*****	15	1	2019/3/3
N0000****	CCCCC	TR	株式会社エフエムラジオ新潟	*****	30	1	2019/2/27

作品名、利用者、番組名、利用秒数、放送日等

透明な分配による権利者
からの信頼獲得

さらなる作品登録の拡大を実現

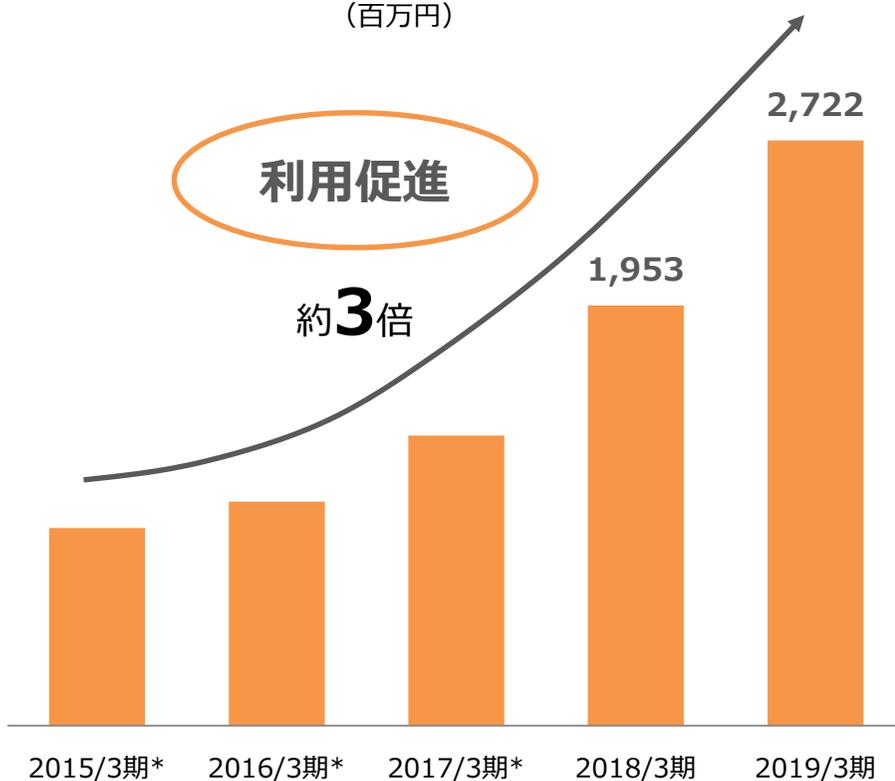
- ✓ 楽曲の利用状況データは利用促進への重要なアセットとしても活用
- ✓ データを活用した配信プラットフォームへの原盤供給（DD）やキャスティングにより、楽曲の浸透速度を加速
- ✓ 著作権の管理のみならず、利用促進まで手がけ「権利者に選ばれ、利用者から支持される」経営理念実現へ



- ✓ 楽曲利用促進に関する取扱高は年々拡大。2019/3期は27億円を売上
- ✓ 配信プラットフォーム向け原盤供給のDDや、プロモーションのためのキャスティングなど、押し並べて伸長

利用促進関連**売上高の推移

(百万円)



利用促進

約**3**倍

ヒット(しそうな)作品を
できるだけ多く管理



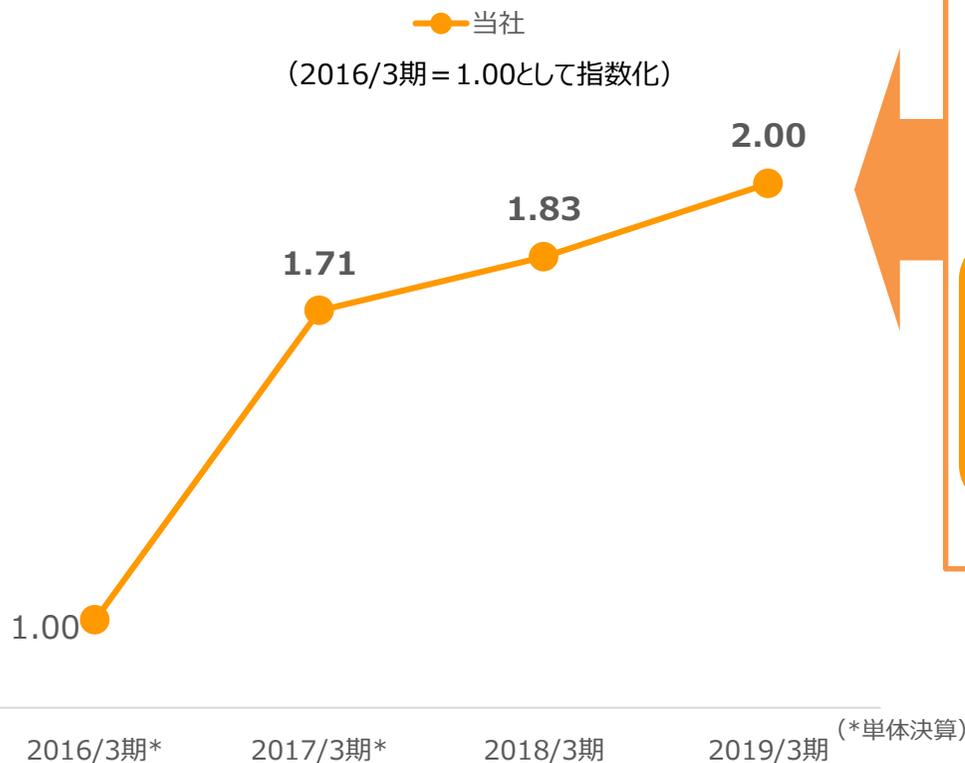
プロモーション、配信、ライブ、
CD/DVDなど、あらゆるツール
を模索して利用促進

*単体決算

** DD事業+キャスティング事業+顧客向けシステム開発(その他事業)

- ✓ 当社の楽曲当たり徴収額は3年で2倍に上昇。利用促進効果もあり、アクティブ曲の育成進む

楽曲当たり徴収額の推移



当社による徴収

$$\text{徴収額} = (\text{曲別利用回数} \times \text{料率}) \\ \text{の管理作品数総和}$$

DD業務、キャスティング事業による利用促進の結果、

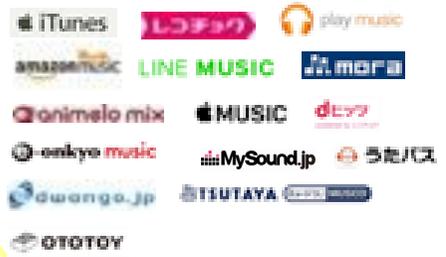
- ✓ プロモーションに積極的なアーティストやヒット新曲を中心に作品流入
- ✓ これらアクティブ曲・ヒット曲の育成も進捗

「THE YELLOW MONKEY再結成時の取組（2016年）」



⑤

auにて楽曲DLプレゼント企画をコーディネート



楽曲配信のディストリビューションをサポート

③

キャスティング

デジタルコンテンツディストリビューション (DD)

キャスティング

著作権管理



ライブ

CD・DVD



楽曲の著作権を管理

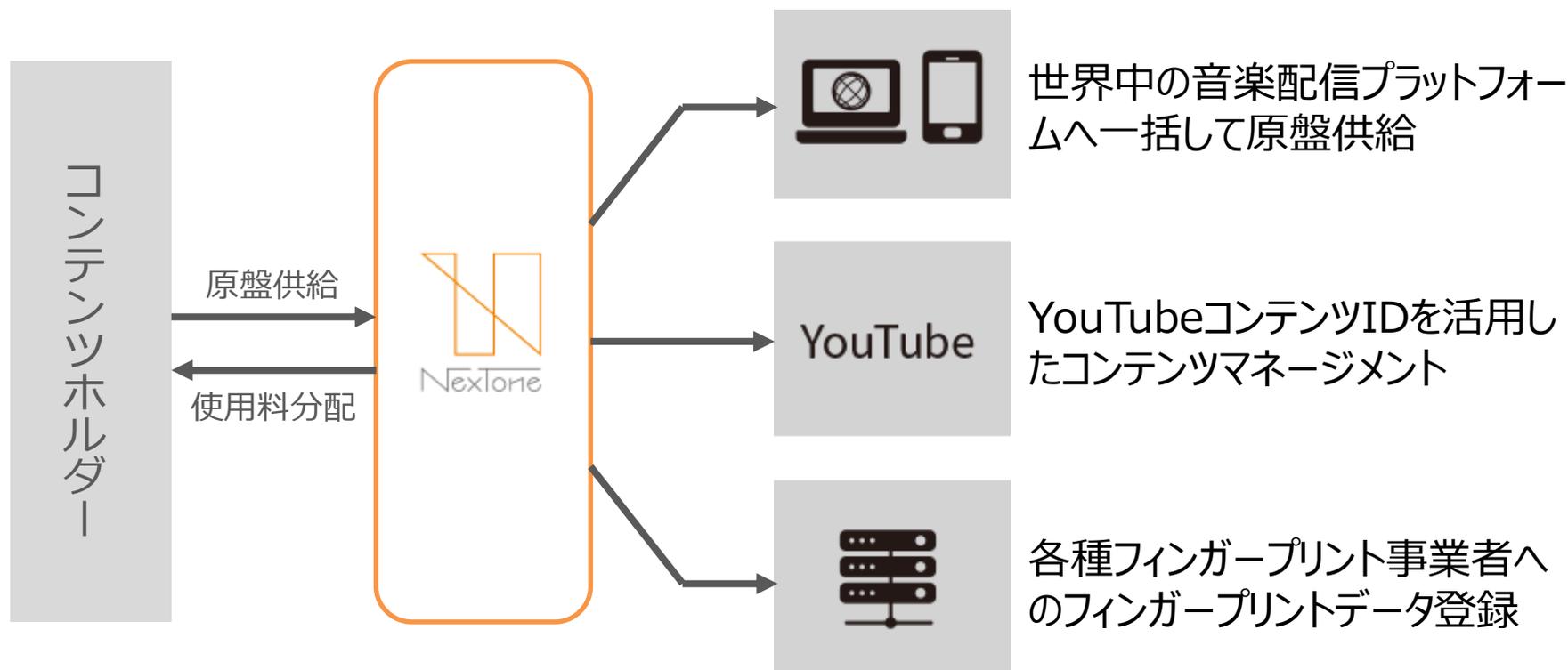
① ②

④

ライブビューイングをサポート

- ① 新曲の著作権管理を獲得
- ② JASRACからの既存曲移管の実施
- ③ 音源供給
- ④ ライブビューイング取扱い
- ⑤ au無料DLキャンペーン取扱い

- ✓ 国内外の音楽配信プラットフォームに向けた音源供給サービス。2003年スタート
- ✓ コンテンツホルダー(メジャーメーカー、インディーズレーベル、プロダクション、音楽出版社、アニメ・ゲームメーカー等)からコンテンツを預かり、各種ルートを使って世界中に配信し、コンテンツの収益最大化を図る



中期展望

成長ミッション

音楽著作権の管理と利用促進の好循環による業容拡大

経営戦略

I

DD業務・キャスティング事業の強化

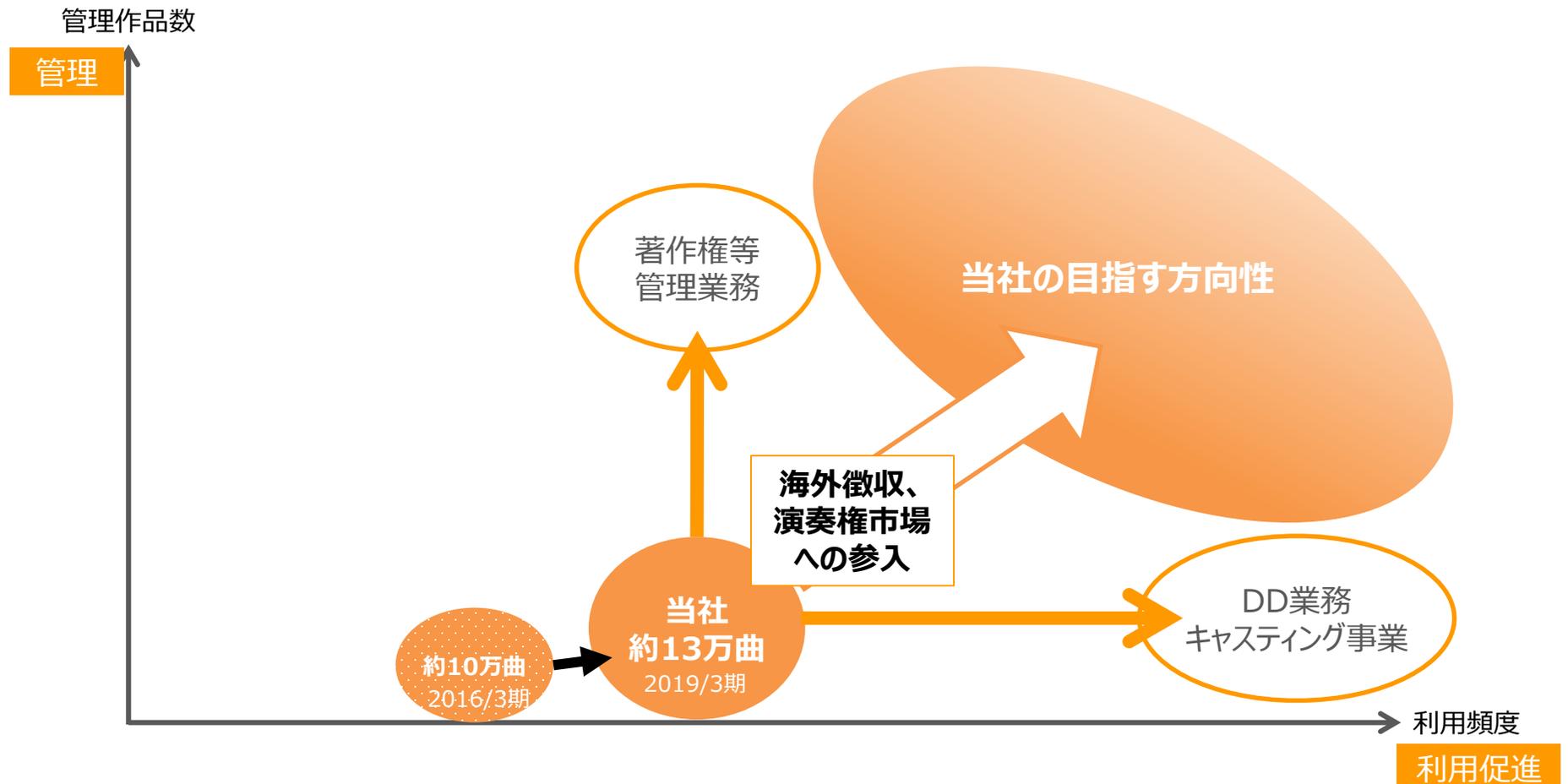
II

海外徴収の実現

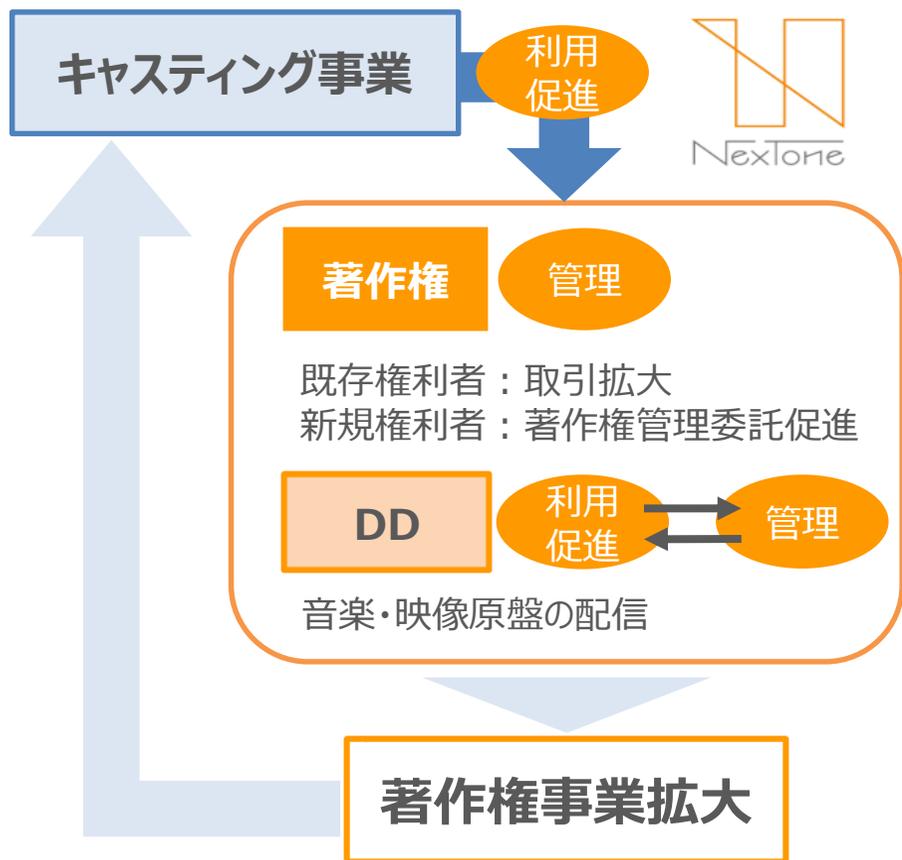
III

「演奏権」管理事業への早期参入

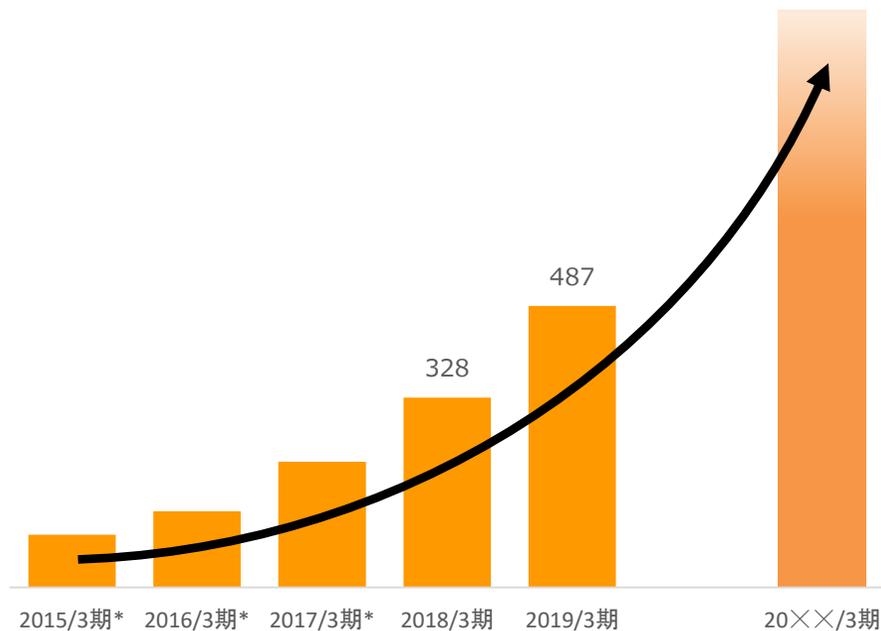
- ✓ 管理曲数の拡大と利用促進、さらに海外徴収・演奏権市場参入などによる相乗効果の早期発現を追求
- ✓ より強力で総合的な「著作権エージェント」を目指す



- ✓ 「権利者に選ばれ、利用者から支持される」ツールとして、コンテンツ利用を促進するキャストイング事業を強化
- ✓ ライブビューイングを軸として、音楽以外にもミュージカル、スポーツなど取り扱いジャンルを拡大
- ✓ キャストイング事業に加え、コンテンツ供給を行うDD業務もさらに拡大（管理と利用促進の好循環）



キャストイング事業売上高推移
(百万円)



*単体決算

音楽



B'z

ライブビューイング史上最大
305劇場で上映
8万人を動員
(2019年11月現在)

ミュージカル



©ミュージカル『刀剣乱舞』製作委員会

ミュージカル『刀剣乱舞』

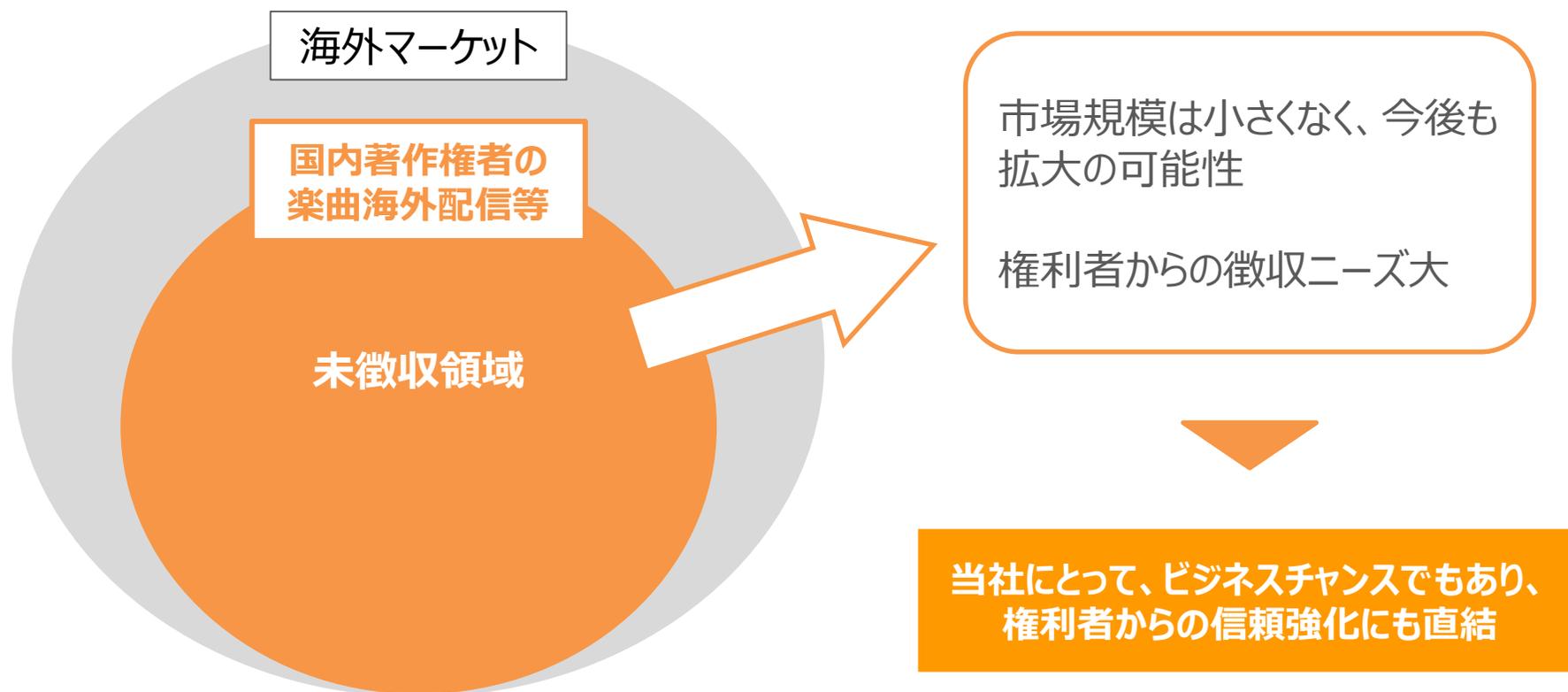
紅白出場実績のある
2.5次元人気コンテンツを
シリーズを通して上映

スポーツ

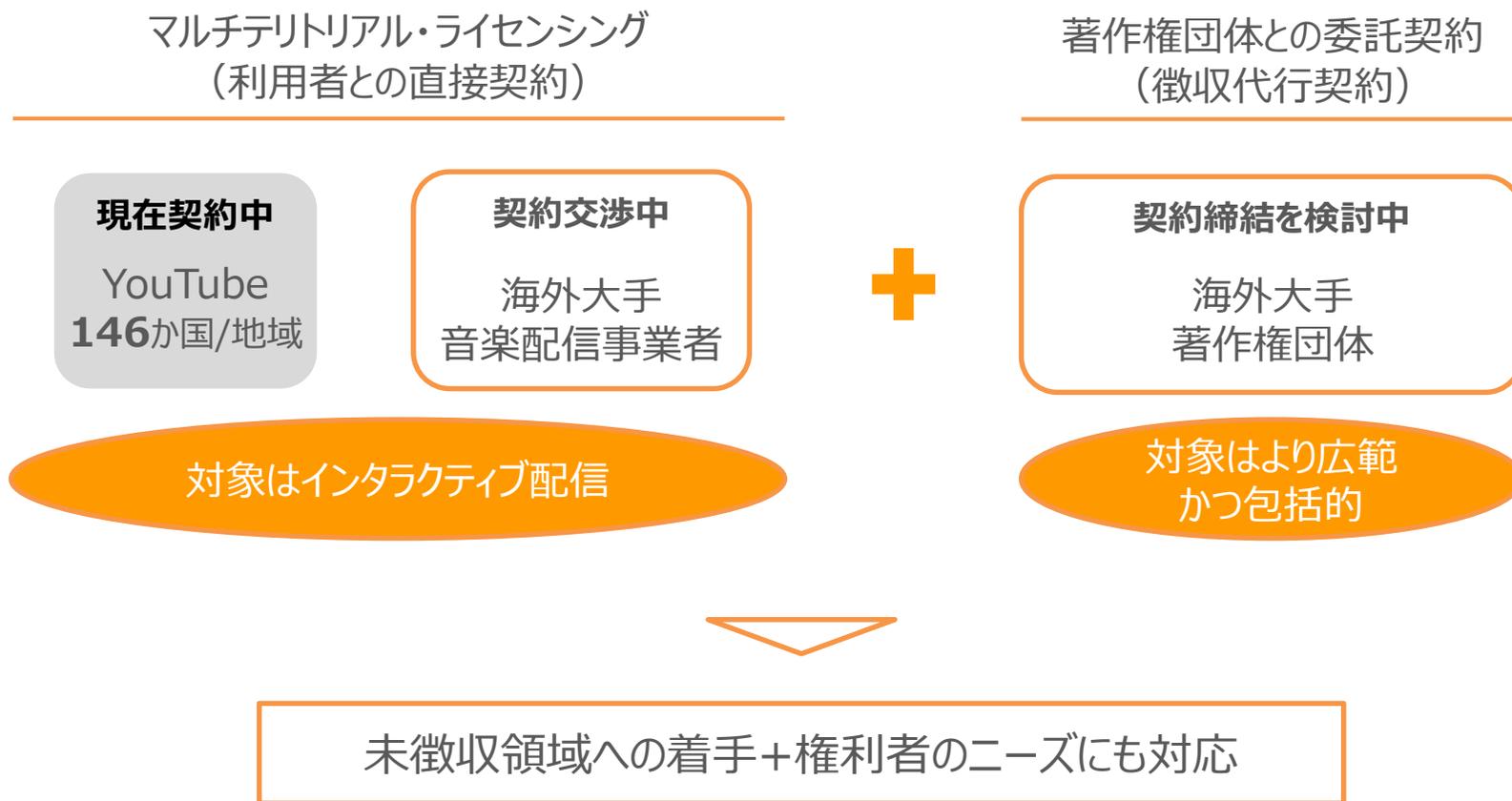


プロ野球球団の
シーズン公式戦を
ライブビューイング上映

- ✓ ネット利用など海外マーケットにおける未徴収領域も大きい
- ✓ 今後は日本の楽曲に対する注目度の向上、ネットによるグローバル化の進展から、海外徴収領域はより重要に
- ✓ 権利者からも海外利用に対しての徴収ニーズは強い

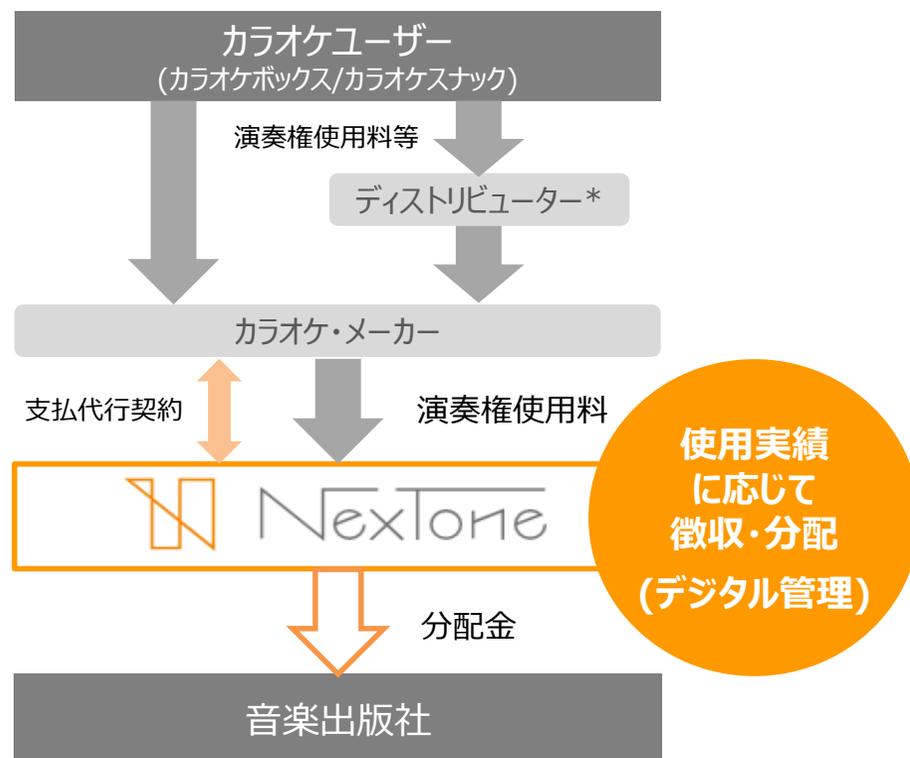


- ✓ 利用者との直接契約が可能なインタラクティブ配信については、一部実績あり。さらなる拡大に向けて、現在、大手音楽配信事業者と契約交渉中
- ✓ 上記以外については、海外著作権団体との徴収代行契約の締結を目指す



- ✓ 参入方法については、カラオケの場合、第一興商・エクシング（カラオケ機器リース会社）と支払代行契約を締結し、一括管理する方法を模索中
- ✓ 同様に、演奏会等(コンサート)の場合は、コンサートプロモーターズ協会との支払代行契約が有望

参入方法案 - 支払代行スキームに基づく元栓処理



*カラオケ・メーカーからカラオケ機器を購入してカラオケユーザーに販売、又はリースを行う中間業者(地場の小規模商社)

主な投資内容

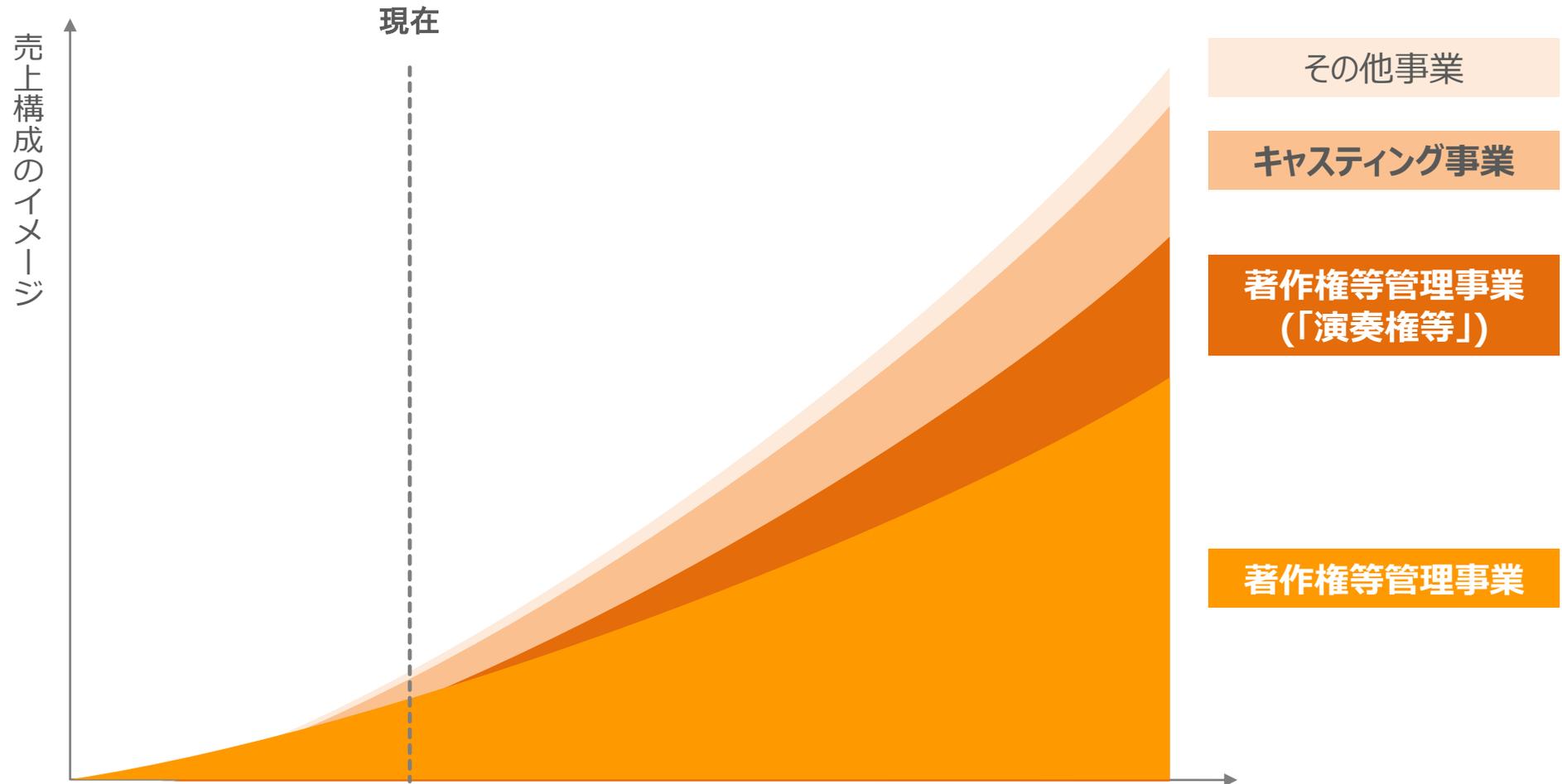
システム投資

人材投資

楽曲利用促進

2020/3期3Q時点の財務状況

現 預 金	26.2 億円
有 利 子 負 債	0.0 億円
自 己 資 本	15.2 億円
自己資本比率	42.1 %



APPENDIX

年	月	株式会社イーライセンス
2000年	9月	著作権等管理事業を主たる目的とし、東京都港区南麻布3丁目に株式会社イーライセンス（現：当社）を設立
2001年	9月	100%子会社として音楽出版及び出版代行業務を行う株式会社エムシージェイビー（以下「MCJP」）を設立
2001年	10月	著作権等管理事業法施行を受け、民間としては初の著作権管理事業者としての届出を行う（登録番号：01005）
2002年	4月	ヒットゲーム音楽や人気インディーズミュージシャンなどの作品を中心とした著作権管理事業を開始（事業開始当初の管理範囲は「録音権」と「インタラクティブ配信」）
2003年	4月	MCJPにて、デジタルディストリビューション（DD）事業を開始（2006年7月、同事業はイーライセンスへ移管）
2006年	4月	民間事業者としては初となる、管理範囲の拡大に着手。同月より「放送・有線放送」における著作権管理を開始
2007年	4月	「出版権等」「貸与権」「業務用通信カラオケ」における著作権管理を開始
2009年	11月	米国 ニューヨーク州に、Cool Japan Music Inc. 設立
2011年	7月	100%子会社としてシステム開発・運営を行う株式会社イーライセンスシステムズ（現NextOneシステムズ）を設立
2013年	9月	台湾 台北市に、音楽出版社として酷亜音楽股份有限公司（One Asia Music Inc.）を設立

年	月	株式会社ジャパン・ライツ・クリアランス
2000年	12月	著作権等管理事業を主たる目的とし、東京都中央区築地1丁目に、株式会社ジャパン・ライツ・クリアランスを設立
2001年	10月	著作権等管理事業法施行を受け、著作権管理事業者としての届出を行う（登録番号：01011）
2002年	4月	J-POPなどメジャーシーンで活躍しているアーティストの作品を中心とした著作権管理事業を開始（事業開始当初の管理範囲は「録音権」と「インタラクティブ配信」）
2005年	9月	iTunes Music Store にて、日本人アーティスト・楽曲では初めてとなる「日本発全世界同時配信」のコーディネート及び配信業務を手がける
2008年	3月	国内音楽著作権管理事業者として初となる、YouTubeにおける音楽利用に関する包括的許諾契約をGoogle社と締結

年	月	株式会社NextOne
2016年	2月	株式会社イーライセンスと株式会社ジャパン・ライツ・クリアランスが合併し、株式会社NextOne 設立
2017年	4月	著作権管理事業を統合し、新たな管理体制でスタート（管理範囲は演奏権以外全て）
2017年	8月	YouTubeにおける管理著作物の利用に関して「データエクスチェンジ機能に基づく利用許諾契約」を、世界中の著作権管理事業者の中でも最初期のタイミングでGoogle社と締結。グローバル時代の著作権管理事業の先鞭をつける

決算年月 (*単体決算)		2015年3月*	2016年3月*	2017年3月*	2018年3月	2019年3月	2020年3月 3Q
売上高	千円	1,034,758	1,172,755	1,604,432	2,331,899	3,239,801	3,181,089
経常利益	千円	60,859	46,643	36,085	103,467	186,254	251,720
親会社株主帰属 当期(四半期)純利益	千円	16,885	-153,230	41,676	61,283	129,593	177,927
資本金	千円	401,500	603,012	659,262	819,762	819,762	819,762
発行済株式総数	株	5,780	10,630	11,380	13,520	13,520	13,520
純資産額	千円	341,973	638,939	793,115	1,209,269	1,343,632	1,520,761
総資産額	千円	603,618	1,280,316	1,598,135	2,645,587	3,135,846	3,610,169
1株当たり純資産額	円	59,165.01	60,107.16	69,693.82	89,349.46	98,954.34	-
1株当たり当期(四半期)純利益	円	2,921.43	-22,949.98	3,919.90	5,379.67	9,585.29	65.80
自己資本比率	%	56.7	49.9	49.6	45.7	42.7	42.1
自己資本利益率	%	5.1	-	5.8	6.0	10.2	-
営業キャッシュフロー	千円	-	-	-	295,301	530,255	-
投資キャッシュフロー	千円	-	-	-	-157,140	-86,912	-
財務キャッシュフロー	千円	-	-	-	321,000	-15,000	-
現金及び現金同等物の期末残高	千円	-	-	-	1,602,647	2,031,254	-
従業員数	名	21	35	47	57	62	-

- 本資料は、株式会社NexToneの事業及び業界動向に加えて、株式会社NexToneによる現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性が内在します。
- すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性があります
- 株式会社NexToneは、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なることもありえます。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、2020年3月30日現在において、利用可能な情報に基づいて、株式会社NexToneによるなされたものである、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。